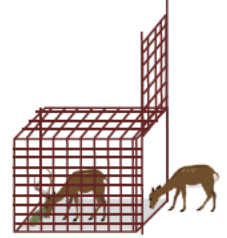


獣害対策の5箇条

- ① 集落内の収穫残さや不要果樹など「エサ場」をなくす
- ② 耕作放棄地や藪などの隠れ場所をなくす
- ③ **囲える畑はネットや柵のできる限り囲う**
- ④ 人里は怖いと覚えさせるため、獣を見たら必ず追い払う



集落のエサ場価値を下げる



- ⑤ 加害している個体を適切に捕獲する

防護柵の基本マニュアル

一般的な防護柵の種類と特徴



電気柵



ネット柵



ワイヤーメッシュ柵



フェンス+電気柵



電気柵+トタン

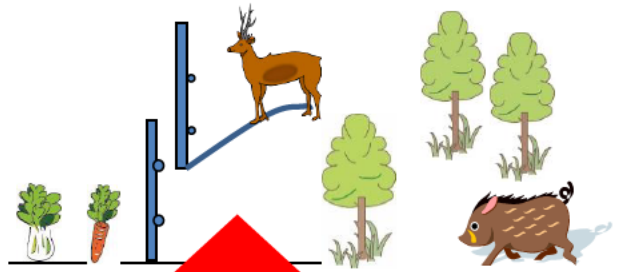
	電気柵	ネット	金網・ワイヤーメッシュ柵	多獣種柵 (フェンス+電気柵)
機能	心理柵		物理柵	
コスト	安	種類によりますが・・・		高
耐久性		低い		高い
メンテナンス	頻繁 (草刈り等)	中程度		比較的楽 (破損等の点検)

各防護柵の特徴を理解して獣種や設置場所等の条件に応じた選定を



柵種別 有効な囲い方の基本と設置ポイント

- ・隙間を作らない（つなぎ目や地際）
- ・作物（食べ物）を獣の目に触れさせない
- ・金網や網の目は10cm以内とする
- ・電気柵は獣の足場が土に接するようにする
- ・柵と獣のすみかの間に空間（緩衝帯）を作る
- ・傾斜地への設置は高さ不足にならないよう注意する



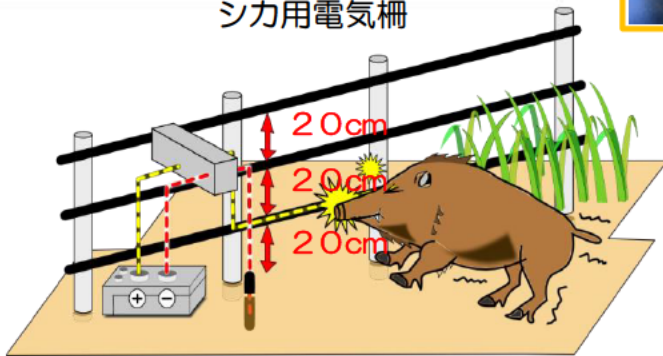
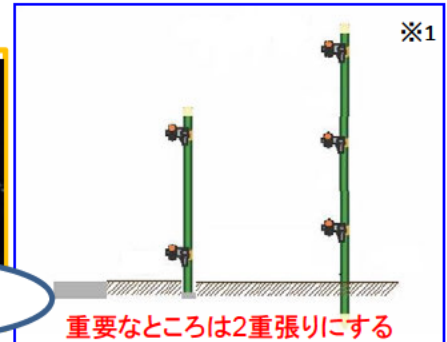
電気柵の基本

確実に電気ショックを与える！=心理柵

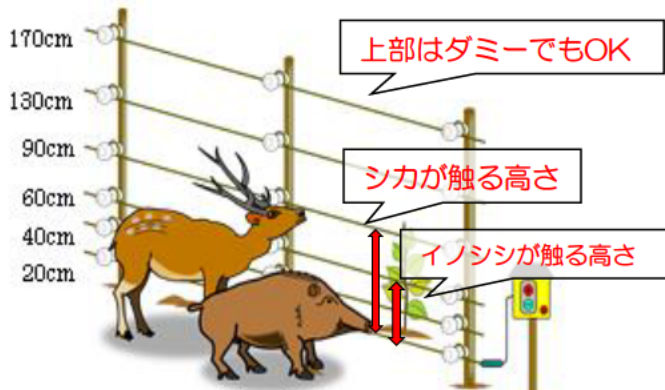
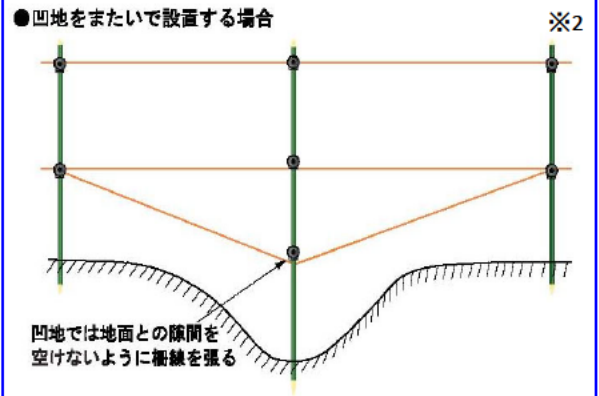


シカ用電気柵

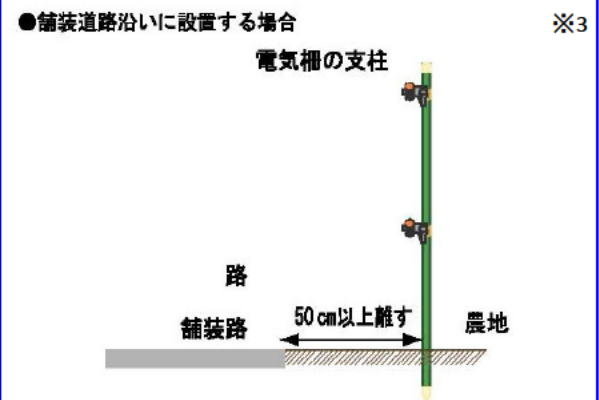
- 電圧は、必ず定期的にチェックする
- 5,000V以上になるように
- 数値で表示されるチェッカーが望ましい



イノシシ用電気柵



イノシシ・シカ両用電気柵

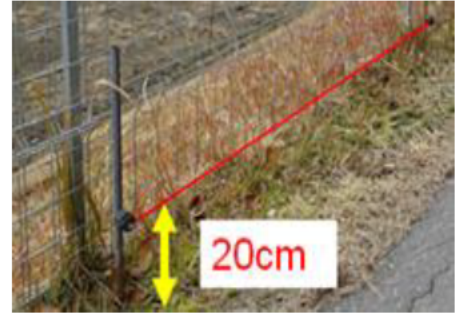
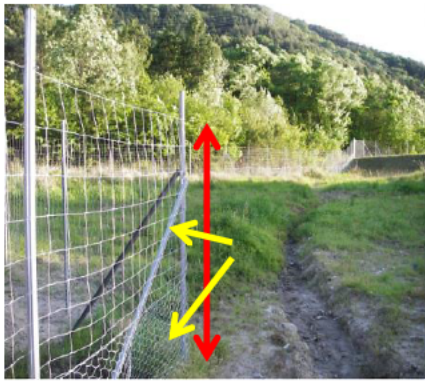


イラスト※1~3: 野生鳥獣被害防止マニュアル
イノシシ、シカ、サル—実践編— ~農林水産省生産局~

電気柵の設置にあたって守るべき基準(安全対策)

- ① 危険である旨の表示をすること 子供にもわかりやすい表記で
- ② 出力電流が制限される電気柵用電源装置を使用すること 家庭用電源から直接電気を供給しない!!
- ③ 漏電遮断器を設置すること(30ボルト以上の電源を用いる場合のみ)
- ④ 開閉器(スイッチ)を設置すること(電源装置本体に付属されており、容易に操作可能であれば追加設置は不要)

金網・フェンスの基本



- 下部の強度を十分に確保する
- イノシシが多いところは、できれば裾付きを！！
- 編み目の強度
線径5.0mm以上(少なくとも4.0mm)
- 編み目の大きさ
10cm以下(イノシシ・シカ用)
- 高さ(忍び返し付きも良い)
シカ:2m以上が望ましい
- メンテナンスを考慮して設置

防護柵設置に役立つイノシシの特性

- くぐり抜けが得意で、地上から20cm程度の隙間であればくぐり抜け可能
- 鼻の力が非常に強く、70kg程度の障害物を鼻で持ち上げることができる。
- 裾の無いフェンスは下部の持ち上げや侵入に特に注意

下部の持ち上げ侵入防止対策

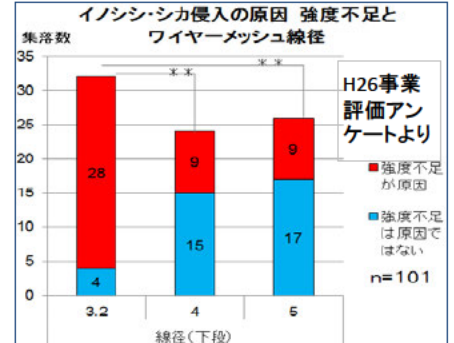
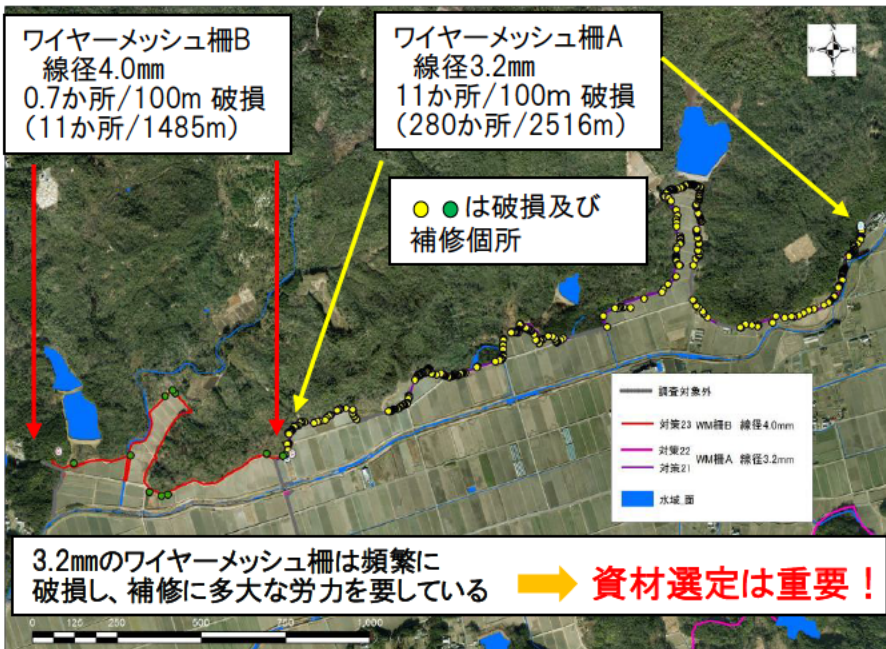
- 直管パイプ、丸太、竹、杭などで地際を補強する
- 柵の外側に電気柵を設置する



傾斜地への設置は高さに注意
フェンス自体の高さではなく、踏切場所からの高さで考える

隙間を開けない
排水溝も侵入口となるので塞いでおきたい 大雨等には注意

メンテナンスを考慮して設置
車が入れる場所なら設置もメンテナンスも効率的 なお、道路や河川敷への設置には占有許可が必要



線径3.2mmは強度不足

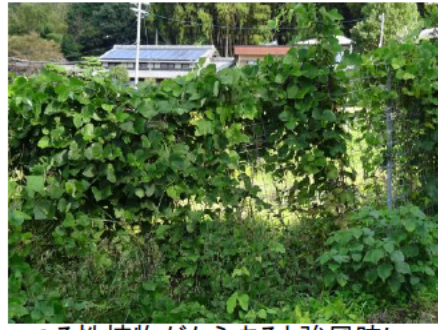
- 設置済み集落代表者は、線径3.2mmの柵は強度不足と評価
- 線径3.2mmの柵は補修にかかる労力が多い
- 線径5.0mm以上推奨(少なくとも4.0mm)。線径3.2mmの柵でも下部を補強することで改善可能

柵を設置した後の基本

何よりもメンテナンス！



山の中は目が届きにくい。
定期的な巡回体制を



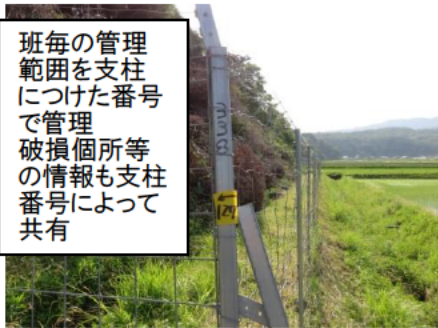
つる性植物がからまると強風時に
柵が倒されやすい



補修にはより強い資材を使う



設計のときから見回りやメンテナンス
を念頭に!!



班毎の管理
範囲を支柱
につけた番号
で管理
破損箇所等
の情報も支柱
番号によって
共有

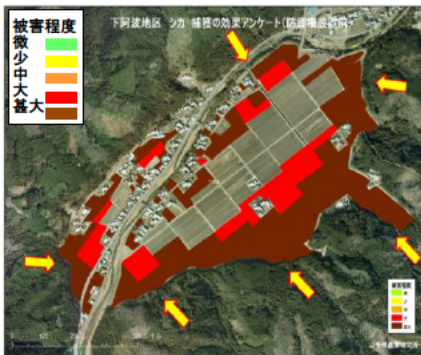
問題点を共有して、メンテナンスが
可能な体制づくり



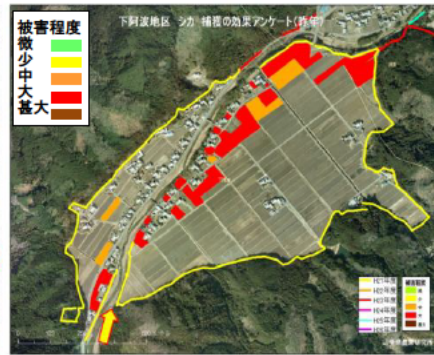
柵の外側もきれいにしている
(津市上ノ村地区)

捕獲と組み合わせて相乗効果を

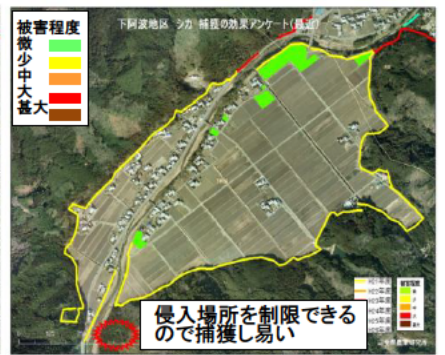
- 防護柵設置後も、囲えない川からシカが侵入
- 侵入場所付近で継続的に捕獲し被害は大幅に減少



防護柵設置前



防護柵設置後



防護柵設置+捕獲後

侵入場所を制限できる
ので捕獲しやすい

まとめ



- 正しく設置すれば、防護柵は効果高い
- 防ぎたい動物に合わせて柵を選択
(イノシシ・シカ用の柵を設置後、「サルも防ぎたい」という意見が出てくるケースがある)
- メンテナンスが重要
柵を設置してからが対策のスタートと考える
- 計画時から、「見回りのしやすさ」「修繕のしやすさ」を考慮し、設計に反映させる
- 防護柵設置+捕獲で相乗効果が期待できる

